

郷土の歴史と暮らしを考える力

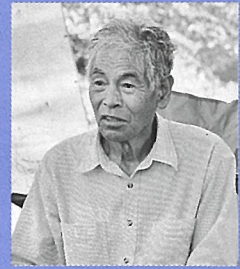
乙女小まつやま塾・井手落とし体験

地域の農業が持つ役割や、そこに携わる人々の暮らしについて
体験を通して知ること、郷土についての理解を深める

夏に伸びる
子どもの力

第3章





乙女小まつやま塾
学習指導コーディネーター
宮本 松雄さん

今回の「まつやま塾」での井手落としての体験学習は、子どもたちに、地域のことをもっと深く知ってほしい、自然のもたらす恵みについて考える力をつけてほしいという思いから企画しました。

井手落としを実際に自分の目で見て、自分たちの手で魚捕りをする中で、地域の農業の中で果たす麻生原堰（せき）の役割やその歴史、農業用水路の機能、自然環境の大切さ、生物との触れ合いなど、さまざまなことが体験できます。そして、子どもたちの豊かな感性をもって、体験学習を通して知ることで、心が豊かな人間に育ってくれればと願っています。

子どものころに体験したさまざまな思い出は、成長して大きくなってからも生きる力になると思います。

豊かな感性を持つ子どもたちが、体験を通して成長したことが、生きる力となります。



威勢よく井手に入り、魚を探す子どもたち。網を振って魚を捕る



自分の暮らす地域のことを体験学習を通して知る

郷土の人々の歴史と暮らしについて子どもたちが知るとともに、川や生物など自然と触れ合うことを目的として企画された、甲佐町放課後子ども教室「乙女小まつやま塾」での井手落としての体験。8月4日（水）麻生原堰（せき）の農業用水路に子どもたちとその保護者など約30人が参加して行われました。

同教室は放課後に学校の余裕教室などを利用して、地域住民



捕るコツを覚えた子どもたちの網には、次々と魚が。捕ったらバケツに入れて、どんな魚がいるのか観察する



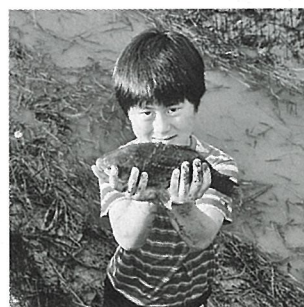
の協力を得て、子どもたちが豊かにはぐくまれる環境を作ることを目的に、町教育委員会が主催。地域住民の中から委嘱された学習指導コーディネーターなどの指導の下、学習活動や体験活動などを行っています。

麻生原堰の役割を学び魚捕りで自然と触れ合う

今回の体験教室は、夏休み企画として実施。午前6時に集合して、初めに子どもたちは、農業において果たす麻生原堰の役割や井手落としての意味、生物が



この日一番の大物をゲット。魚捕りを終えた後は、参加者みんなで捕った魚の種類を調べる



生息するために必要な自然環境の大切さなどについて講話を聞いて学習しました。

井手の水が引き始めてから、魚捕りを開始。網やざる、バケツを手にして水に入り、石の下や水草の中などに手や網を入れて、時間を忘れて魚捕りに熱中。引率の保護者も昔を思い出し、魚や川カニの捕り方を熱心に子どもたちに教えました。

捕った魚やカニなどは、最後に参加者全員で集まり、名前や種類などを調べて、地域の自然環境について考えました。